

最近の一風変わった人名を取材した「キラキラネームーイマドキの命名事情」を、4月1日付から連載し、読者から意見や感想をいただいた。中でも目を引いたのが、「平凡」な名を息子に付けた40代の父親が書いた詩だった。作者は垂水区の和菓子店経営大沢和弘さん。2007年の神戸新聞文芸入選作だ。

「君にはとても ありふれた名前を付けよう 振り仮名なんてなかったって 皆にすぐ読んでもらえるような 名前を付けよう

君の名前は 君自身の手で 色を塗り オンリーワンなものに してあげたい

「平凡」でも「キラキラ」でも

マリナーズ(当時)で大活躍しているとても平凡な名前のあの野球選手みたいに

(中略)

だけどこれだけは忘れないで たとえどんな名前であろうと そこには 君の健やかな成長と 幸せだけを祈っている。パパとママのありったけの想いが 込められているということを

息子さんの名前は「むかし武史」というそうだ。平凡でも、キラキラネームでも、由来を聞けば親の愛情、ぬくもりが真つすぐに伝わる。詩を読み、思わず頬が緩んだ。(藤村有希子)

ハーバーだより

学校名()

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

①あなたの名前をせいかくに書きましょう。よみがなも書きましょう。

②どんな思いをこめて付けられた名前なのか、おうちの人に聞いて書きましょう。

③名前にどんな思いがこめられているかをきいて、あなたはどんなふうに思いましたか。

() 年